



あじさいネット OFF LINE 通信

vol. 12



「佐世保市黒島町 蕨展望台より撮影」

目次

会員様の声	
この内科医院	河野 宏 先生 2
白髭内科医院	白髭 豊 先生 3
佐世保市立総合病院 黒島診療所	羽田野 和彦 先生 4
開生薬局 高田店	手嶋 無限 先生 5
「あじさいネット」キーパーソンに聞く	
長崎県周産期医療支援システム協議会 会長 森崎正幸氏	6
周産期医療支援ネットワークシステム	7
情報提供病院のご紹介	
貞松病院 地域医療連携室	8
情報提供病院一覧表	
あじさいネット見学実績	9
	10

現在の運用状況

(平成 26 年 9 月 26 日現在)

- 患者登録数：39,400 名
(全件あじさいネット説明同意書 取得済)
- 会員数：434 名
- 情報閲覧施設数：240 施設
(内、薬局数：45)
- 情報提供病院数：27 施設

賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株) 医療ソリューション事業部
- (株)LSI メディエンス
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ 公共システム事業本部

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。



「地域、施設、職種」を超え、あじさいネットが繋ぐ



PROFILE

平成元年 佐賀大学医学部卒
平成23年 あじさいネット入会
◆この内科医院 院長

●あじさいネットの情報は 多方面で活躍●

医師の仕事は的確な診断をすることが一番大事で、治療はそれに伴ってきます。私が悩んだ症例の患者さんを医療センターに紹介した場合、どういう診断をし、検査をされたのかというプロセスがあじさいネットを利用することでよく分かります。また、大学を卒業して20年以上も経つと知らない検査もあるので役立ちます。

それに、医療センターの先生と連絡を取り合いつながりながら私も一緒に見えていますと患者さんにごうとすごく安心されます。退院されるまでの様子も把握でき、診療所に戻って来られてからの次の継続的な診療に活かしていきます。ご家族が来られた時も、様子を話したりできるのでご家族も安心されますね。こういった点は普通でないことなのでやはり大きいです。

●あじさいネットが橋渡し●

医療センターと一般診療所間の連絡を緊密に、協力して治療に臨んでいると実感しています。私が診ている患者さんはあじさいネットに入っている施設ばかりなので、あじさいネットが全部橋渡しをしてくれていると言っても過言ではありません。

東彼杵郡波佐見町

この内科医院 河野 宏 先生

この ひろし

TEL : 0956-20-7500 E-mail:kohno@kxb.biglobe.ne.jp

長崎県下で情報提供病院は増えていますが、佐賀県の嬉野医療センターの参加は、県を越えてのネットワーク作りの最初です。紹介することが多い私にとっても、東彼地区にとっても非常に大きなことでした。今後も広がっていつてほしいです。

あとは、診療所の先生方にあじさいネットが広がっていけばと思っています。医師会単位ではほとんど加入していますので、是非とも入会し、活用していただきたいです。せっかく素晴らしいシステムがあるので使わないのはもったいないです。

●波佐見での地域医療●

この8月から東彼杵郡医師会の下部組織として、また、「長崎在宅Dr.ネット」の弟分として「波佐見在宅Dr.ネット」がスタートしました。波佐見町の全ての診療所医師が参加しています。

正会員は運営する医師、準会員には眼科、皮膚科の専門医や病院医師、賛助会員は薬剤師や歯科医師、興味を示した地域の方に入っています。皆顔の見える関係ですので、そういう点ではやりやすいかと思っていますが、協力体制を大事にしながら多職種連携を進めていくつもりです。訪問看護ステーションを2月にオープンし、去年まで行っていた訪問リハビリも再開しました。在宅ケアを中心とした地域医療への取り組みに様々なことが揃ってきました。

先生方にあじさいネットへ入会していただき、セキュリティの高いセキュアメールを使って連絡を取り合う予定です。iPadの利用にも期待しています。

●難病を乗り越えた 自分だからできること●

毎朝、「感動、感謝、寛容」と座右の銘を唱えながら起きます。私は中学生の時に発症した難病を乗り越え医者になりました。何度も入院し、なかなか治らず投げやりになってしまった時期もありましたが、内観することをきっかけに生きる希望を持ち、元気になってくると何か役に立つことをしたい、これからの人生、自分のためだけでなく、人のためにも生きたいと思うようになりました。

自分自身が長年患者だった経験から、病気に負けずいかに生きるかをアドバイスできる医者を目指しています。そして、患者さんのためになることであれば何でもやってみようとしています。あじさいネットや在宅ネットワークを始めたのもそんな思いからです。

医者というのは、薬を処方するだけ、注射の指示を出すだけの機械ではありません。ちょっとしたことであっても一声かけたり、患者さんのためになることを少しでもしたいというプラスアルファの気持ちを持つことが大事で、それは、患者さんにもちゃんと伝わると思っています。



河野先生はいつもバランスボールに座って診察をされているそうです。意外と患者さんは気付いていないとのこと。休日はゴルフでリフレッシュ！

長崎の地域医療連携は「あじさいネット」と共に



PROFILE

昭和 63 年 東京医科大学医学部卒
 平成 16 年 あじさいネット入会
 ◆白髭内科医院 院長
 ◆長崎在宅 Dr. ネット
 事務局長・副理事長

●●あじさいネットを長崎市へ●●
 大村市であじさいネットがスタートした時から面白い取り組みだと興味を持ち、2004年に第2回の運用講習会を受けて加入しました。医療連携の中で非常に先駆的で、これは役に立つと思えました。
 当時、私は長崎市医師会の理事をしており、あじさいネットを長崎市に導入しようと思つて動き出した初期のメンバーです。長崎市医師会に地域医療ネットワーク推進部会を立ち上げ、ITによる医療連携にはどのようなものかいいか検証していった結果、あじさいネットしかないと思えました。その後、長崎市全体があじさいネットに包含されていくきっかけを作りました。
 ●●在宅医療でのiPadの活用●●
 7月より当院の電子カルテがあじさいネットにアップロードされることになりました。iPadを用いたモバイル事業が始まりましたが、利便性が格段に違い、持つて行ける、その場で確認できることが夢のようです。訪問先

長崎市片淵

白髭内科医院

しらひげ ゆたか

白髭 豊 先生

TEL : 095-822-5620

E-mail: clinic-admin@shirahige.org

で病院のカルテ情報や処方情報、検査情報、画像などを患者さんと一緒に見ながら説明できるのでとても便利です。

●●多職種連携の成熟が●●
 病院の情報を見るという段階から、今は訪問診療所、薬局、訪問看護ステーションとの情報共有が双方向性で実現しつつあります。在宅の各種機能が同じフィールドであじさいネットのノート機能、セキュアメールを利用して情報共有ができることがもはや現実のものとなり、新しい段階に入ったことを実感しているところです。

あじさいネット発展の基礎に●●

私は「長崎在宅Dr.ネット」や、「緩和ケア普及のための地域プロジェクト O P T I M」などに取り組みながら多職種間の連携による在宅医療を提供しようと活動を続けてきましたが、それにより地域での顔の見える関係も成熟していったように思います。

今、長崎には、薬剤師による「Pーネット」や訪問看護ステーションの「ナースネット」ですとか、「包括ケアまちなかラウンジ」という総合相談センターもでき、様々なネットワークの連携が進んでいます。

あじさいネットの位置付けというのは、それら全体をまとめるような医療連携、情報連携のプラットフォームと言いますか、基幹道路のようなものだと思っています。利用するフィールドが長崎では十分熟していたからこそ、あじさいネットはこのように広がっていったのではないのでしょうか。全国的にもあじさいネットと長崎の地域医療連携は大変注目されています。

●●更なる連携の広がりへ期待●●

更に期待しているのは、病院の先生方に運用講習会を受けていただき、あじさいネットの機能を一緒に使えるようになってほしいということです。セキュリテイ面で安心できるセキュアメールを利用し、情報共有ができればと思います。

また、在宅医療にはケアマネジャーとの連携が欠かせません。在宅スタッフの一員としてあじさいネットと一緒に活用できるよう参入の道筋を作っていただき、地域連携を更に推進していきたいです。

あじさいネットにはかなり思い入れがありますので、一ユーザーとしてこれからも発展し続けていってほしいと思っています。

●●始めたことは貫徹してやり抜く●●

父親がよく言っていた「反省を伴わない経験は不確実であり、不確実な経験の積み重ねは危険である」という言葉が座右の銘です。 motto は、「始めたことを貫徹してやり抜く」ということ。趣味は水泳で、古式泳法の先生の資格を持っています。



Convenient tool

在宅医療の現場でiPadは使い勝手がよく活用されているそうです。また、電子カルテがアップロードできるようになりお喜びでした。

基幹病院とのしっかりした連携により、離島の医療は孤立しません



PROFILE

昭和 62 年 長崎大学医学部卒
平成 25 年 あじさいネット入会
◆佐世保市立総合病院
黒島診療所 所長

●あじさいネットは
離島での診療に役立つツール●

黒島診療所に来る前は急性期医療施設に勤めていたもので、最新の医療現場の中で画像を見たり、電子カルテを使うことにも慣れており、あじさいネットはすぐに役に立つツールだと思いました。

あじさいネットを利用することで、基幹病院で検査を受けられている患者さんの血液検査のデータや画像を見ることができるようになりました。胸部X線撮って小さな影を見つけた時には、過去に佐世保市内の基幹病院で撮影されたものがあつたので比較することができました。

また、医師記録が見れるので、基幹病院でどのような検査をされたのか、それに対する主治医の診断や、どういった治療方針を立てられたのがよく分かります。今までずっと外科を専門にしてきたものから、一般内科、プライマリケア、救急も含めて勉強になります。

佐世保市黒島町

佐世保市立総合病院 黒島診療所 羽田野 和彦 先生

はたの かずひこ

TEL : 0956-56-2014

●あじさいネットを利用して●

あじさいネットを使い始めて1年ほどですが、最初は画像がよく見えなかったり、開けないことがありました。画像などの重たいデータがすぐに出てこないのは、島で回線の容量が限られているためだと思いますが、これは仕方ないですね。のんびりやっています。時間たつぷりなので。

使い方がわからない時は、県の医師会事務局の方に問い合わせています。その都度、親切に教えていただけます。

●離島での医療に安心感を●

離島では設備や医療情報が最先端ではないのではないかと、どこか頼りなく思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、できることを少しずつでも良くしていきたいという気持ちです。私自身、何かと不便さを感じることはありますが、あじさいネットのように役立つものを見つけてカバーしていきます。

僻地医療の一つの特殊性でしょうが、詳しい検査や専門的な治療が必要な場合、診療所でできることは限られていますので、基幹病院や専門医に紹介する機会が多いです。地域医療の中で、あじさいネットは多くの先生方とのコミュニケーションの大きなパイプになってくれていると思います。

島の医療は孤立しておらず、基幹病院ともしっかり連携をとっていることを患者さんに理解してもらい、安心感を持っていただきたいと思います。僻地であっても、医療は僻地であってはならないと思っています。

By the roadside



取材終了後、羽田野先生に島の名所を案内していただきました。我々が絶景に見とれ写真撮影に夢中になっている時、たまたま通りかかった患者さんに先生が気づき、体の具合を尋ねていらっしゃる場面です。

●医者人生の最後は島で●

去年の4月から黒島診療所に勤務しています。学生の頃、五島へ釣りによく行っていましたので、島の素晴らしさ、面白さは若い頃から実感していました。その頃から医者人生の最後は島でと、ぼんやり決めていたように思います。

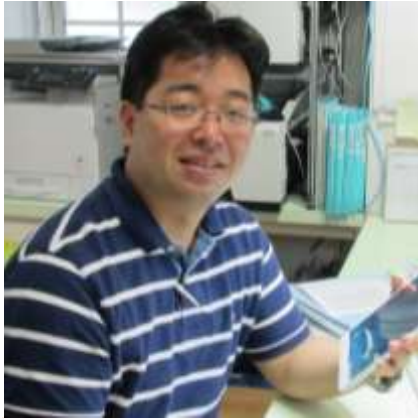
釣りが好きなので、島での生活は趣味と実益を兼ねています。港に船を置いていて、天気の良い日は出勤前に船釣りを楽しんでます。冷凍庫には、釣った魚の切り身がたくさん入っており、ビールの肴には事欠きません。

●見過ごしてきた幸せ探し●

最近、「幸せ」についてよく考えるようになりました。結構ちっぽけなことでも幸せっていうのはあるので、幸せって発見しないといけないですね。小さくて見過ごしてきたような、そういうものを。

女性はそんな能力ってすごいですよ。例えば料理を作って家族に喜んでもらえたらそれだけで幸せになれるから。男は夢とかロマンばかり追い求めて、足元の幸せに今まで気付いていなかったのかなというのを感じています。毎週、山に登り、頂上で女房が作ってくれたおにぎりを一緒に頬張るのが私の幸せの一つです。

薬剤師の立場から地域の皆さんの「健康支援」を



PROFILE

平成 12 年 福岡大学薬学部卒
 平成 23 年 あじさいネット入会
 ◆開生薬局 高田店 管理薬剤師

西彼杵郡長与町 開生薬局 高田店 手嶋 無限 先生

てしま むげん

TEL : 095-894-7793 E-mail: mugen-0531@umin. ac. jp

●あじさいネットで得られる情報で
 心構えができる●

私は在宅医療に特化した薬局の薬剤師として、訪問診療と大きな病院を併診している患者さんを多く訪問しています。9割以上が在宅の患者さんという珍しい薬局です。

化学療法をしている方の場合、処方内容が入力されていることがあり、事前に注射薬や検査値などの情報を見ることができて便利です。こちら側としても心構えができます。また、過去の治療経過を見ることが様々な職種の方たちがどう関わっているのかも把握できます。

情報の連携がスムーズにいかないケースが多い中、治療内容や、検査値、薬の使用歴を把握できるツールとしてあじさいネットは大変有用です。

●●薬剤師の目線で見えること●●
 これまでは、副作用があった場合などに医師に減量や中止、変更を薬剤師の立場から提案しても、その後の経過を知ることがなかなかできませんでした。

何が転機となってどう変わったかということ
 は処方箋一枚では全然分かりません。それがあじさいネットを使うと、なぜ投与量が変わったのか、治療効果や検査値の動きも見ることができ、薬剤師も薬物療法の効果を確認しながら動けるようになりました。また、同時に、医師がその検査値からどのように判断しているのかも見えてきます。病院内で当然できていることが地域でも少しずつできるようになってきたと感じています。

違う目線で薬剤師が見てダブルチェックし、医療の安全性を高めていく、そういった点を意識しながら服薬指導、治療法の管理を医師と協働でやっていきたいと思っています。

●バーチャルホスピタルの
 真の実現へ向けて●

大きな病院を受診している時は医師や看護師の記録をチェックできますし、検査値も見れます。しかし、診療所になると新しい情報は得られず、紹介状からの過去の情報しか見れません。それがあじさいネットの今後の課題かと思えます。

その第一段階として、ノート機能を使った情報のやり取りが在宅チーム内でできるようになりました。改善されてきたとは認識しています。が、診療所でも電子カルテの使用が広がっている、主要な情報だけでもアップしていき、在宅チームの中で共有できるようなシステムになってほしいです。

地域連携パスや疾病管理システムにおいても、診療所の情報は必要だと思っています。診療所での診療内容も、評価や変化があった場合の推測に必要なだと思っています。

病院はデジタル化が進んでいます。診療所も紙カルテではなくて電子カルテに変わってきて、薬剤師のほうも紙の薬歴から電子の薬歴に変わってきています。徐々に電子化されていっている、ある程度安全な環境の中で必要な情報が繋がっていけば、バーチャルホスピタルという、あじさいネットの当初のスローガンが本当の意味で実現していくのではないかと思います。

●●薬局選びは立地ではなく
 人に依存する●●

薬局といえば病院の隣にある調剤薬局の印象があるように思いますが、これから薬局業界も変わっていくでしょう。大病になった時はしっかりと治してくれる医師を探して遠い場所でも行くように、薬局も在宅医療となると誰でもいいわけではなく、お願いしたいと思える薬剤師を探すと思います。立地ではなくて人に依存するはずですよ。

昔ながらの一般用医薬品を販売する薬局には、その薬剤師を信頼しているから健康相談をして行くのであり、今後は自分にとって身近な薬剤師がいる薬局を選ぶ方向へと進むと思います。私の母も薬剤師で昔ながらの薬局を営んでいます。小さい頃からそんな母を見てきたこともあり、地域の中で皆さんの健康の支援をしていきたいと思っています。

●●休日の過ごし方●●

最近は休みが少なく、週末もいろんな所で講演する機会を頂いています。行った先では、自分の過去の活動を振り返ったり、美味しいお酒や食事を楽しまいます。また、全国の先生方と意見交換したり、学会と違う側面でも話ができるのが気分転換になっています。

「あじさいネット」キーパーソンに聞く 長崎県周産期医療支援システム協議会 会長 森崎正幸氏

もりさき まさゆき

TEL : 095-838-7117 E-mail : mtakara@orange.ocn.ne.jp



PROFILE

昭和 51 年 長崎大学医学部卒
◆宝マタニティクリニック院長

◆長崎県の周産期医療の体制と課題◆

長崎県では、国立長崎医療センターを周産期医療体制の中心とする「総合周産期母子医療センター」に、長崎大学病院、長崎みなとメデイカルセンター市民病院、佐世保市立総合病院を「地域周産期母子医療センター」に指定しています。この四つの施設で主な周産期のハイリスク疾患を対応していただいています。

周産期センターに搬送するのは、母体の疾患で送る場合と赤ちゃんの状態が悪くて送る場合がありますが、その多くは早産で未熟児の治療になります。しかしながら、四施設合わせてもベッド数が七十八と大変少なく、特に長崎市周辺での三十二週未満の早産は対応が難しいです。大村、佐世保に搬送するか、それでもいつぱいであれば県外搬送になります。長崎市周辺のNICU（新生児集中治療室）を含めた周

産期医療を充実させてほしいと関係者に働きかけています。

長崎県の課題は妊産婦、新生児、乳幼児の死亡率を下げることです。全国平均と比べてやや高いのです。

妊産婦については、診療所から周産期医療センターへの搬送時に起こる出血性ショックによる心肺停止が少なくないため、救急車内での輸血体制の徹底をお願いしています。新生児、乳幼児は搬送するタイミングが問題です。ぎりぎりまで診ずに早めの搬送をと呼びかけています。

◆医療のIT化で迅速に対応◆

緊急のハイリスク分娩に備え、診療所と周産期医療センターで情報を共有するために、本県ではあじさいネットに構築した「周産期医療支援システム」を利用していきます。

妊婦さんの健診の管理は各病院がそれぞれ違うソフトを使用しているためデータが若干違うことがあります。周産期医療支援システム共通のソフトを使うと同じ計算式ですから赤ちゃんの推定体重、その他のデータも非常に管理しやすくなります。

紹介時にはクリックするだけで搬送先の先生が患者さんのデータをすぐに見ることができます。詳しく、しかも迅速ですので、搬送する間に正確に把握し準備ができます。

◆周産期医療支援システムのメリット◆

長崎では未熟児のベッドが少ないために、一旦受け入れられても途中で搬送先を変更されることがありますが、そういった場合にも簡単に紹介状を送れますので、一分一秒を争うことが多い中、速やかに対応できます。

四、五年前から妊婦さんの糖尿病スクリーニングを全国に先駆けて始めました。しかしながら、それぞれの病院に問い合わせなければならなかったために、なかなかデータが集まりません。それが周産期医療支援システムでIT化するとデータの共有ができます。そして、スクリーニング機能を使えば、すぐにハイリスクの妊婦さんが分かります。これによって乳幼児死亡率の減少にも寄与できるのではないかと期待しています。

◆周産期医療のレベルアップを目指して◆

正常分娩はこれまで通り開業医が対応していき、異常のある妊婦さんができるだけ早期に発見して周産期センターで管理体制をとるといふシステムを作りたいと思っています。そのために、全医療機関が周産期医療支援システムに参入してデータを共有し、勉強会を開いて一緒に取り組んでいければと考えています。

今、数名の先生にお願いし、周産期医療支援システムの利用を試験的に始めたところですが、大村の先生方はあじさいネットに慣れていることもあって上手くいっているとの返事をいただきました。

妊娠後期の方のデータを全部入れるとなれば大変ですので、まずは妊娠初期の方を登録することから始め、慣れてから徐々に増やしていくくらいの感じでしょうか。データ登録にはやはり時間がかかりますので、電子カルテに保存されている過去のデータに関しては、まとめて入力する仕組み等を検討中です。患者さんやスタッフにも迷惑がからないようスムーズな導入方法を多方面の方と考えています。

貴重な妊婦さん、赤ちゃんですから死亡をゼロにしたいという希望を持っています。最初の二年くらいが正念場でしょうか。長崎の周産期医療をレベルアップさせるんだと肝に銘じ、取り組んでいきます。

◆どんな時も平常心で◆

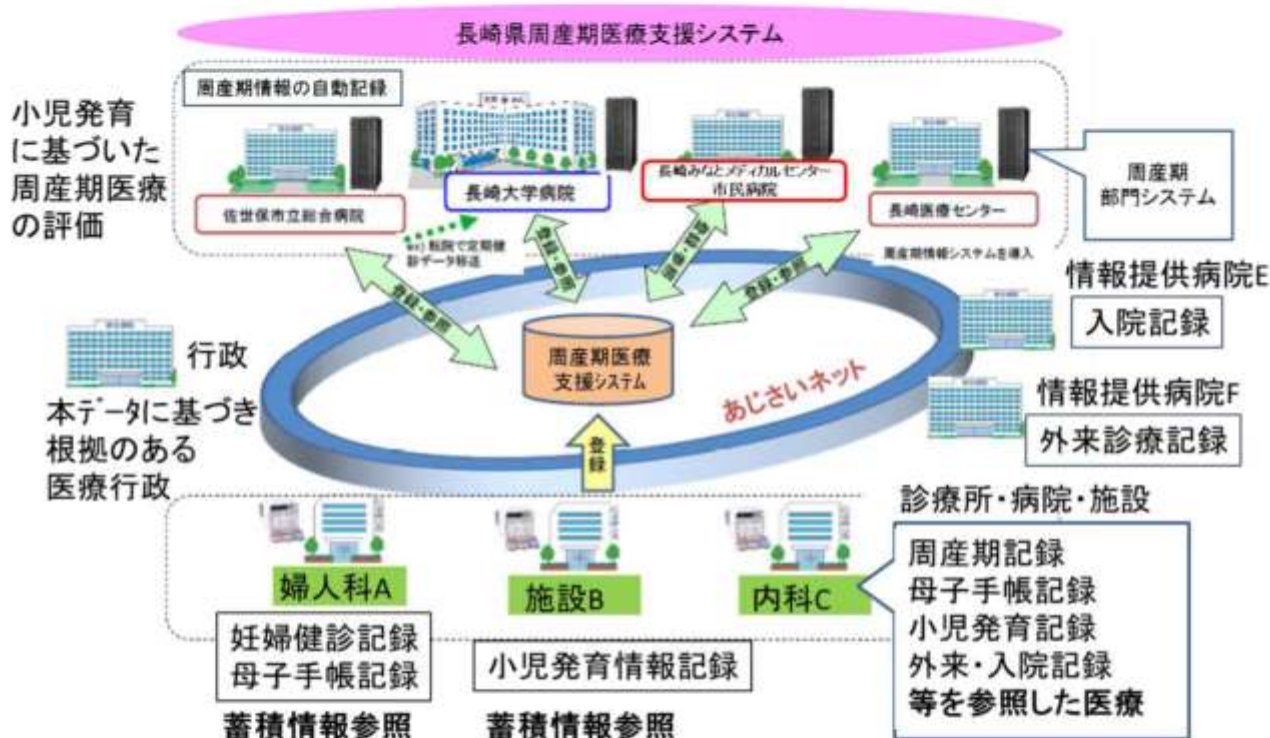
座右の銘なんて大げさなものではないのですが、常に「平常心」のみです。慌てず、気負わず、マイペースでやっていこうと思っています。

たまの休日には、音楽を聴いたり、仲間とヨットに乗って美味しい料理を食べ、大好きなワインを飲んで息抜きをしています。

周産期医療支援ネットワークシステム

周産期医療における安全性を確保し、母子の心身ともに健康と発育を支援する

近年、出産年齢の高齢化等に伴うハイリスク妊産婦及び低出生体重児は増加傾向にあり、本県の乳児死亡率及び新生児死亡率は全国平均を若干上回る水準で推移している。安全で安心の周産期医療に向け、ハイリスクな分娩に備え、周産期母子医療センターと産科クリニックで必要な情報を迅速に共有できる周産期医療情報ネットワークを「あじさいネット」上に構築した。産科クリニックが日々の妊婦健診データを登録し、妊婦になんらかの異常や新生児の発育上にリスクが発生して周産期母子医療センターへ紹介する際には、必要なデータを迅速に周産期母子医療センターへオンライン提供できるとともに、産科クリニックの妊婦健診データ及び分娩記録、周産期母子医療センターで分娩した全妊婦の退院サマリを蓄積するシステムを構築している。これにより、安全に出産できる環境を確保するだけでなく、将来的には蓄積したデータを周産期医療の質の向上を目的とした研究等へ活用するという展開が期待できる。



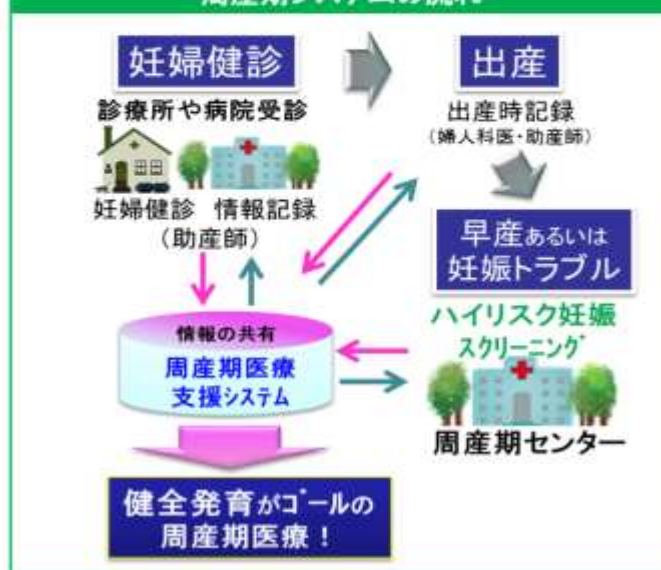
■システム構成

1. 周産期管理システム(検診時又は、受診時に登録)
安全な出産のための記録、ハイリスク妊婦の事前把握
緊急入院時の詳細情報把握(紹介状機能)
入院時所見の自動記録、新生児記録
2. 周産期部門システム(4病院)
電子カルテおよび1と自動連動し周産期医療を支援

■本システムのメリット

1. 周産期診療専用の電子カルテシステムとして利用可能
2. 診療予約管理(ドロップアウト管理機能)
3. 正常値異常・ハイリスク患者の自動表示
4. 緊急搬送時、簡単に迅速に送れる紹介状
⇒拠点病院:到着前に詳細な診療経過把握
5. 転院後の診療過程モニタリング
6. 逆紹介時、詳細な分娩記録の自動取得
7. ハイリスク妊婦スクリーニング機能
⇒ハイリスクマーカー個人設定機能
8. High Security iPad利用による診察前情報入力
⇒看護師(助産師)による入力サポート
9. 将来的には、小児発達支援機能を追加予定

周産期システムの流れ



長崎周産期医療支援システム協議会
〒852-8532 長崎市茂里町3番27号(長崎県医師会内)
お問い合わせ:095-844-111

情報提供病院のご紹介

貞松病院 地域医療連携室

貞松病院は、平成 26 年 5 月に診療情報提供をスタートしました。
 「患者さん本位の医療、安全と信頼の医療、地域に貢献する医療」を病院理念としています。

Message / 貞松 ^{さだまつ} 俊弘 ^{としひろ} 院長



PROFILE

昭和 60 年 久留米大学医学部卒
 ◆平成 17 年より 貞松病院 院長

◆顔の見える連携を大切に◆

顔が見える連携というのが一番重要だと思っています。大村は幸い多職種との連携が上手くいっている土地柄です。医師会、長崎医療センター、大村市民病院、長崎県精神医療センター、歯科医師会、薬剤師会などの親睦会や研究会がありますが、時間がある時には積極的に参加して、皆さんと顔が見える同士の連携ができるようにと努めています。

◆整形外科での iPad 活用◆

長崎医療センターからリハビリ目的で紹介された患者さんは、あじさいネットのことで結構ご存じです。医療センターでレントゲンを撮って、また当院でレントゲンを撮るというのは二度手間になるため、あじさいネットを使うことに同意していただけます。

ただ、立ち上げに時間がかかることが難点です。すでに使用されているところもあるようですが、iPadであればすばやくアクセスでき、移動もできるので、もっと使いやすくなるかと思えます。

整形外科というのは外来の患者さんが大変多く、今の多忙な外来業務の中であじさいネットを利用するのは正直難しいところがあります。入院患者さんや転院して来た患者さんの場合は時間的な余裕がありますので、閲覧して画像や病歴などの情報を得ています。

先日、手術をする患者さんに麻酔に関する問題があり、麻酔の先生からあじさいネットを見てほしいと要望があったので、カルテを見て具体的にどういった治療をされたかが分かり、大変参考になりました。

◆地域とのコミュニケーション◆

言語面やコミュニケーション面で問題を抱えているお子さんを対象にした「キッズサッカースクール」というボランティア活動に取り組んでいます。当院の言語聴覚士が主宰しており、スポーツを通して人と触れ合う機会を持つていただこうと月に一回、長崎医療センターの体育館を借りて行っています。参加者は、二、三歳から中学生の子供たち三十名くらいです。こういったイベントを開催しているところは県内では少なく、大村市外からも参加の問い合わせがあります。

集団活動の中で協調性が養われ、ルールを守ることを勉強することができますし、一人一人の性格を見て、発達に合わせながら対応していくと、打ち解けてきて、できなかつたことが段々できるようになります。そんな姿を見て、保護者の方も喜んでいらつしやいます。地域の余暇支援の場、多くの方との出会いの場にもなっているようです。

◆富士山で見たご来光に感激◆

休日はゴルフをしたり、妻と二人で温泉や山登りに行っています。日本人なら一度は登りたいと思っていた富士山にも挑戦しました。一回目は残念なことに雨でご来光は見れなかったのですが、二回目で見ることができ大変感激しました。

また、スポーツドクターの資格を持っていて、スポーツ選手の怪我予防や治療にあたっています。個人的にも、病院全体としてもスポーツ関係の仕事が多く、当院の看板の一つになっています。

◆地域医療連携室より、診療所の先生方へ◆

まだ当院にカルテが存在しない患者さんのご紹介の際、いつ受診をされるかわからない場合があります。同意書に当院の受診予定日を書いていただくと、それに合わせてスムーズに公開できるかと思えますのでご協力をお願い致します。



貞松先生と地域医療連携室の皆様

前列左下から反時計回り：貞松先生、貞方様（医療ソーシャルワーカー）、宮崎様（医療ソーシャルワーカー）、吉村様（医療ソーシャルワーカー）

あじさいネット情報提供病院一覧

平成 26 年 8 月 25 日更新

地域	情報提供病院名	あじさいネット登録受付時間		部署	電話	F A X
		月～金	土・日			
県央	長崎医療センター	8:30～17:00	—	地域医療連携室	0120-731-062	0120-731-063
	市立大村市民病院	8:30～17:15	—	地域医療連携室	0957-52-1800	0120-378-375
	長崎川棚医療センター	8:30～17:15	—	地域医療支援センター	0956-82-3121	0120-82-2970
	諫早総合病院	8:30～17:00	—	医療連携室	0957-22-1380	0120-1388-35
	貞松病院	9:00～17:00	—	地域医療連携室	0957-54-1161	0957-54-1165
	愛野記念病院	8:30～17:00	(土) 8:30～12:30 ※第2土曜日休み	地域医療連携室	0957-36-0015	0957-36-0731
	諫早記念病院	9:00～17:00	—	医療連携室	0957-22-0370	0957-22-2903
	日赤長崎原爆諫早病院	8:30～16:30	—	医療連携室	0957-43-2111	0957-43-2870
長崎	光晴会病院	8:30～17:00	(土) 8:30～12:00	地域医療連携室	095-857-3563	0120-573-632
	十善会病院	9:00～17:00	—	地域連携室	095-821-1214	095-818-5388
	長崎大学病院	8:30～17:00	—	地域医療連携センター	095-819-7930	095-819-7305
	長崎みなとメディカルセンター 市民病院	8:45～17:00	—	医療連携センター	095-822-3251	095-821-1116
	日赤長崎原爆病院	8:30～17:00	—	病診連携室	0120-845-261	0120-845-262
	済生会長崎病院	8:30～18:00	(土) 9:00～13:00	地域連携推進室	095-827-7021	095-827-7025
	聖フランシスコ病院	9:00～17:00	(土) 9:00～12:00	地域連携科	095-846-2553	095-845-7600
	井上病院	9:00～17:00	(土) 9:00～12:00	地域連携室	095-844-1281	095-849-6622
	長崎記念病院	8:30～17:00	—	地域連携室	095-871-1515	095-871-1510
	長崎北病院	9:00～17:00	(土) 9:00～12:00	診療録管理室	095-886-8700	095-886-8707
	虹が丘病院	8:30～17:00	(土) 8:30～12:30	地域医療連携室	095-856-1112	095-856-1102
	上戸町病院	9:00～17:00	—	地域連携室	095-832-5615	095-832-5616
五島	長崎県上五島病院	8:30～17:15	—	地域医療連携室	0959-52-3000	0959-52-8150
	長崎県五島中央病院	8:30～17:00	—	地域医療連携室	0959-72-3181	0959-75-0657
佐世保	佐世保市立総合病院	8:30～17:15	—	地域連携室	0956-24-1515	0956-22-2850
	佐世保中央病院	8:30～17:30	(土) 8:30～12:00	地域医療連携センター	0120-33-8293	0800-7000-070
	佐世保共済病院	8:30～17:30	—	医療連携室	0956-22-5136	0120-12-2067
	長崎労災病院	8:15～17:00	—	地域医療連携室	0956-49-2191	0120-666-437
県外	嬉野医療センター	8:30～17:15	—	地域医療連携室	0954-43-1213	0120-473-489

あじさいネットは今年で10年目に入りました。年々診療情報を利用できる施設は増え、現在、大村地域、長崎地域、上五島地域、佐世保地域の全公的病院及び県外（佐賀）を含む27病院のカルテ情報を約200医療機関で共有しており、地域医療の中ではなくてはならないサービスとなりました。今年も新たな情報提供病院の参加が予定されており、毎月700名前後の診療情報が書面同意を得て新規に登録されています。

あじさいネットのHPに情報提供病院一覧を掲載しておりますが、「あじさいネット受付登録時間」を加えましたのでご利用下さいませ。

◆◇あじさいネット見学実績◇◆

毎年、全国から多くの方にあじさいネットの見学へお越しいただいております。概要説明会の後は、実際にあじさいネットを使用されている病院、診療所、薬局等への訪問となり、それぞれの具体的な利用方法の説明があります。(これまでの見学件数：2007年～2014年 / 合計 122 件、下記期間の見学件数 2013/9/3～2014/9/18 小計 34 件)

2013 年	2/7	群馬大学医学部附属病院 システム統合センター
9/3	2/27	亀田総合病院 地域医療連携室
9/3	2/27	徳島県西部総合県民局
9/3	2/27	産業技術総合研究所
9/12	3/6・7	日本薬学生連盟
9/26・27	3/14	東北大学病院メディカル ITセンター
10/7・8	3/20	横浜市立大学
10/24	4/24	千葉大学医学部附属病院 企画情報部
11/28	4/24	仙台市議会
11/28	4/24	医療法人 かわな病院
11/28	5/22	東京都議会 厚生委員会
12/5	5/28	厚生労働省 大臣官房会計課
12/5	6/5	福島県国民健康保険団体連合会
12/12	7/29	公立宇出津総合病院
2014 年	7/31	三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
1/9	8/19	富山大学医学部 医学科 5 年生 1 名
1/9	8/28	国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部
1/30	9/18	奈良県立医科大学 病院経営

□

《見学者アンケート》 ※2013年9月3日～2014年9月18日 上記34施設 集計結果

- ◆年齢：20代(30%)、30代(17%)、40代(26%)、50代以上(27%)
- ◆性別：男性(68%)、女性(32%)
- ◆職種：事務職(17%)、行政職(13%)、医師(8%)、医療情報関連(5%)、地域連携関連(5%)
看護師(5%)、医療ソーシャルワーカー(3%)、薬剤師(1%)、管理職(院長以外1%)、院長(1%)
その他(41%：医療機器メーカー、医療系SE、ITベンダー、臨床検査技師、獣医、研究職、
大学院生、高校教職員、コンサルタント・リサーチャー、薬学生)
- ◆見学の満足度：大変満足(93%)、やや満足(7%)、やや不満(0%)、大変不満(0%)
- ◆概要説明の満足度：大変満足(91%)、やや満足(8%)、やや不満(1%)、大変不満(0%)
- ◆診療所訪問の満足度：大変満足(86%)、やや満足(7%)、やや不満(1%)、大変不満(0%)、未訪問(6%)

◆改善点・懸念点、また、普及に向けて必要なもの

- ・情報を保存することができたりコピーできること
- ・検査値を閲覧できない病院も参加病院の中にはあるとのことで、閲覧対象を可能な限り増やしていくこと
- ・あじさいネットと同じシステムを使う地域関係者を全国組織化し、ノウハウの共有及び個々の課題解決の支援、導入する際の助言や支援などを行う

◆印象に残った点

- ・個人情報のセキュリティがしっかりしている
- ・協議会を中心とした運用体制が確立し、熟成されていることに驚きを感じた
- ・県が一体となっている点
- ・医師自身の勉強になるというメリットや、そこに対するニーズの大きさ
- ・薬局でのあじさいネット活用により、従来よりも細やかな処方監査や処方意図の理解が可能となっている点
- ・医療に対する意識の高さに感心した
- ・視察した医療機関全ての医師が、「患者第一」という同じ気持ちでこのネットワークを利用し、仕事の効率より、患者のためというところに感動させられた
- ・「診療所側に参加へのメリットを感じてもらえない」当圏域とは逆で、診療所側にこそ多大な恩恵があるのだと気付かされたこと
- ・「あじさいネットは信頼関係を深めるツール」という言葉




HOGY®

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 ホギメディカル

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



Empowered by innovation **NEC**

見つめているのは、人びとの暮らしです。


人びとが安全・安心で豊かに暮らせる社会のために、私たちは先進的なICTで貢献します。

お問い合わせは、NEC(高層ソリューション事業部)へ
〒105-8001 東京都港区芝五丁目7-1 (NECビル) TEL:03-5795-6756

<http://jpn.nec.com/>

THE KAITEKI COMPANY 三菱ケミカルホールディングスグループ

2014年4月1日、弊社(旧三菱化学メディエンス株式会社)は社名を変更しました。



株式会社LSIメディエンス

ヘルスケアの未来を変えていく。
健康で安心な社会を創造していくというビジョンのもと、より多くの人々にKAITEKIを届けてまいります。

LSIメディエンスは、三菱ケミカルホールディングスグループの新たな事業会社として2014年4月1日に発足した株式会社生命科学インスティテュート(Life Science Institute, Inc.: LSI)のグループ企業となりました。

株式会社LSIメディエンス 〒101-8517 東京都千代田区外神田一丁目13番4号 THE KAITEKIビル

- 臨床検査(生化学的検査・免疫学的検査・核酸学的検査・免疫学的検査・遺伝子検査検査・病理学的検査・その他検査)
- 産科分娩支援サービス ● 産科検定サービス ● 検査器具用医薬品・検査器具用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品開発支援サービス(医薬品開発支援・歩留率試験・製法試験) ● ビジネスによる業務・産学連携 ● 遺伝子・タンパク質
- 医薬品・医療・化学品・食品原料等・化粧品等における安全性評価・環境リスク評価サービス
- 食の安全サポート ● ドーピング検査

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が **50,000 円** 必要となります。尚、初期設定費用として別途 **30,000 円** を承ります。

2. 利用料金

月々 **4,000 円** (レセプトオンライン請求も希望の場合は **5,000 円**)
と年 **3,000 円** のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。
*TV 会議システム及び、遠隔画像診断システムの回線のみのご利用の場合も同額の料金となります。尚、高品質遠隔画像診断システムでは別途診断料金がかかります。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ (NTT フィールドテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後、『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛に FAX で送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能となります。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては、HP からダウンロードできます。



手嶋先生は紙面 5 ページにてご紹介しています。

◆4 コマ漫画作者：詫摩和彦先生
長崎市医師会所属
長崎在宅 Dr. ネット理事

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内) 担当：三浦・苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

編集後記

本号の宝マタニティクリニック院長 森崎正幸先生のインタビューでも紹介しておりますが、7月10日よりこれまで2年間かけて準備してきました「長崎県周産期医療支援システム」の先行運用が始まりました。9月22日時点で利用できる産科医療機関は、長崎、諫早、大村、島原、佐世保の9箇所となり、すでに294名の妊婦さんが登録され妊婦検診に利用されています。本システムはあじさいネットの高セキュリティネットワーク上で機能するクラウド型周産期専用電子カルテであり、あじさいネットに加入していれば県内どこからでも利用できます。さらに本システムにはもう一つ特徴があります。それは国立長崎医療センター、長崎みなとメディカルセンター市民病院、佐世保市立総合病院、そして、長崎大学病院の4つの周産期センターに共通の病院周産期専用の電子カルテを同時に導入し、本システムと完全連携する機能を持たせました。2015年1月から運用を開始する予定ですが、周産期センター側ではこれまで容易に知りえなかった詳細な周産期経過記録が瞬時に得られるため大変有用と思われる。このような取り組みも全国初です。今後ますますあじさいネットの価値を高めてくれるものと思います。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 ajisai-project@nagasaki.med.or.jp